臨海部の道路網の整備に関する要望

平成２０年７月１４日
横浜市幹線道路網建設促進協議会
会　長　　藤木　幸夫

都市の道路は、市民生活や経済活動を支える最も根幹となる施設である。横浜港では、平成１６年４月に、国道３５７号横浜ベイブリッジ区間が開通し、本牧ふ頭と大黒ふ頭の連絡が強化され、都心を通過せざるを得なかった港湾の物流関連交通が横浜港の上空を直接通行できることになった。

また、首都高湾岸線本牧ジャンクションや環状２号線屏風ヶ浦バイパスも供用されるなど、臨海部周辺の道路網の整備は、横浜市内の物流関連交通の効率化、横浜都心部の渋滞緩和、環境の改善などに大きく貢献している。

横浜港は、指定特定重要港湾として港湾施設整備を進捗させ、アジア地域の経済成長などを背景に、堅調にその取扱貨物量を増加させてきたところである。

今後とも、横浜港がその国際競争力を高め、東アジアにおける中枢的港湾として発展していくため、港湾物流に円滑かつ的確に対応できる道路網の構築が不可欠と考える。

そこで国等においては、次の事項について取り組まれることを強く要請する。

一．横浜港のスーパー中枢港湾機能の一層の拡充に向け、国道３５７号（ベイブリッジ区間）へ接続する臨港道路（本牧出口改良）の早期供用や本牧ふ頭との連絡強化など、臨海部道路網の一層の充実を図ること。